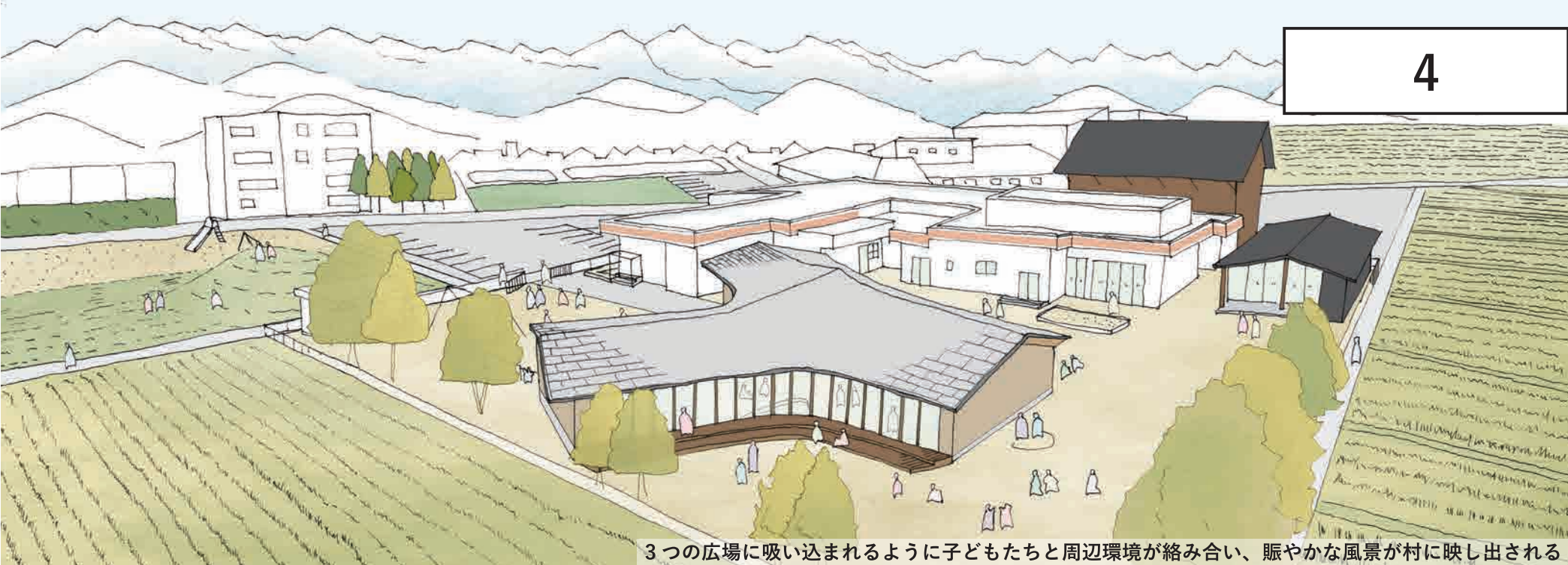
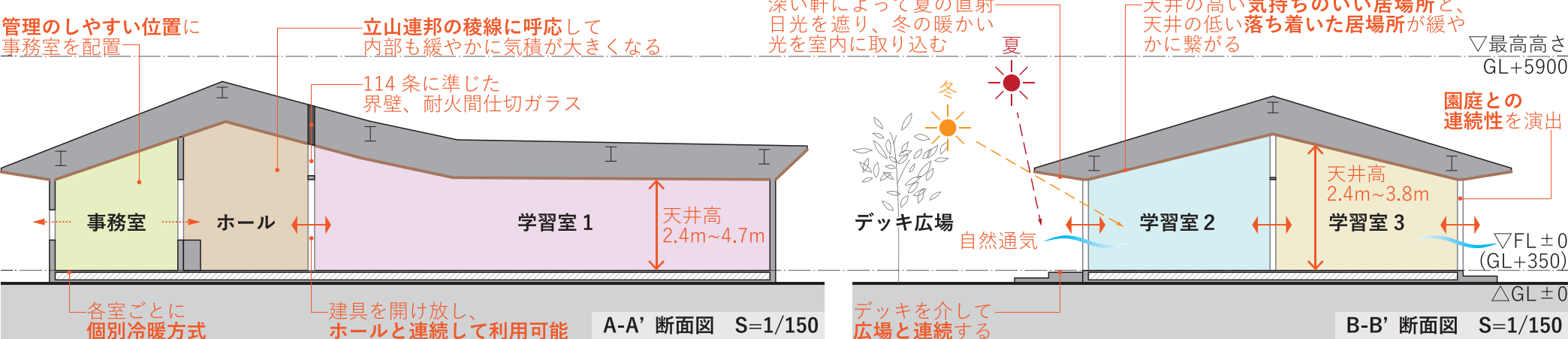
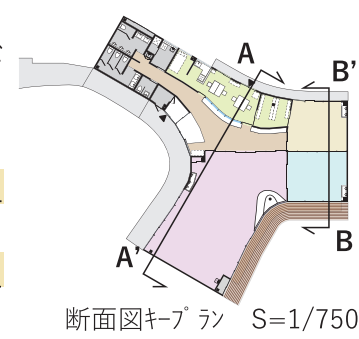




■断面計画・環境計画

稜線に沿って変化する天井高と舟橋村の風土に根ざした環境システム

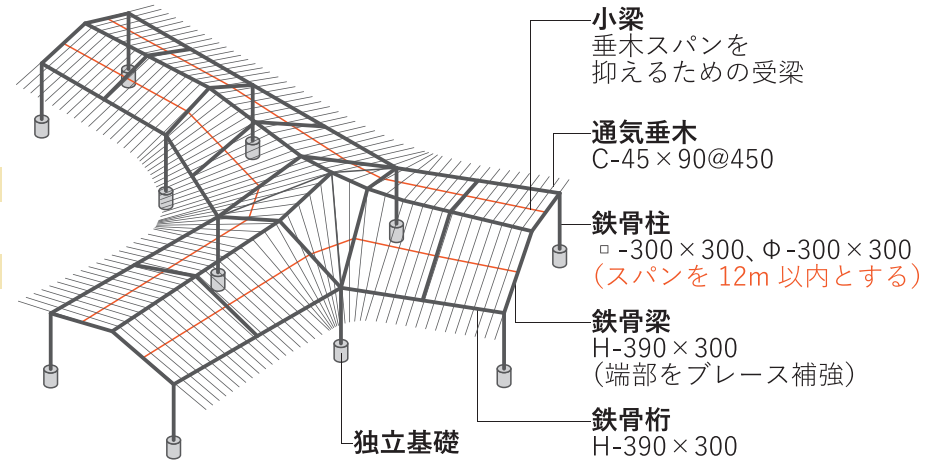
- ・立山連峰の稜線に呼应して天井高を変化させ、「天井が低く落ち着いた窓辺」や「部屋の中央の天井が高く気持ちのいい場所」など多様な居場所をつくり、児童の活動の幅を広げる計画とします。
- ・深い軒によって建物内に入り込む日射をコントロールし、夏期、冬期の空調負荷を抑えます。
- ・中間期は建具を開け放して水田を渡る心地よい自然風を室内に呼び込み、舟橋村の豊かな自然と風土を積極的に取り入れた環境計画とします。
- ・各室ごとに調整可能な床吹出の個別冷房方式を採用し、利用人数に応じた空調調整を行うことで、空調ランニングコストの削減を図ります。



■構造計画（構造種別：鉄骨造）

経済性・施工性に配慮し、大空間をつくる

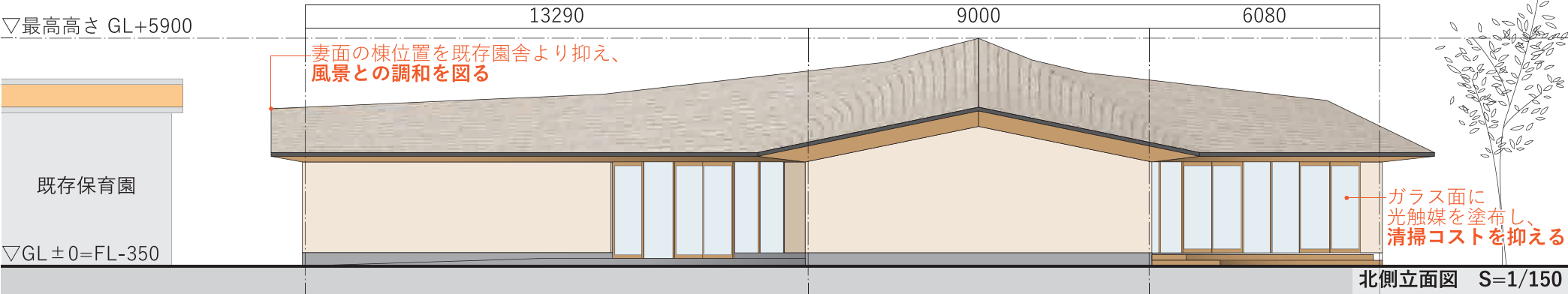
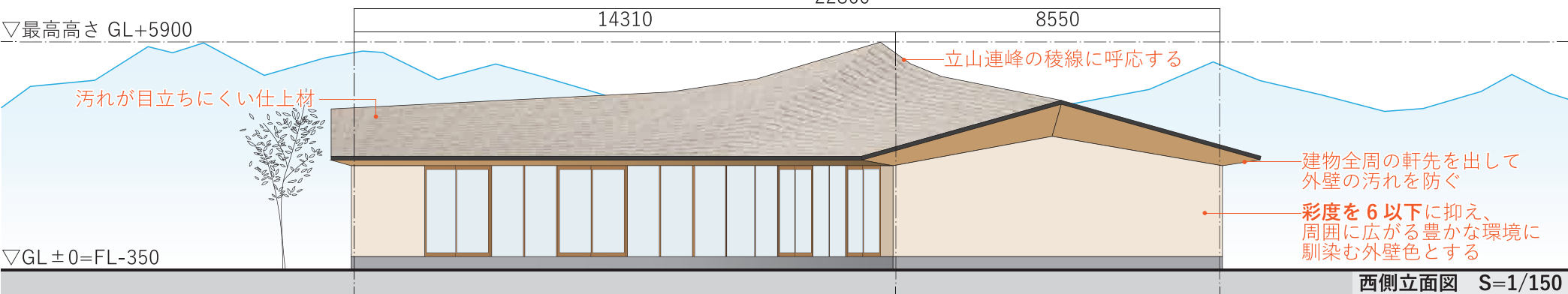
- ・耐震性、耐火性、耐久性を考慮して鉄骨造とし、フレキシブルな内部空間を実現するため、二方向ラーメン構造とします。
- ・スパンを 12m 以内に抑えて施工性に配慮し、かつ柱の設置箇所を少なくする合理的な計画とします。
- ・シェル屋根面を施工のしやすい鋼製の直線材でつくり、積雪を屋根上部に乗せる耐雪としても十分安全な計画とします。
- ・基礎形状を柱直下に限定する独立基礎とし、価格高騰が問題となっている鉄筋・コンクリート量の削減を行います。（地盤強度試験にて最終決定）



■コスト・メンテナンス性に配慮した素材

県産材の小径材を用いた温もりのある内部空間

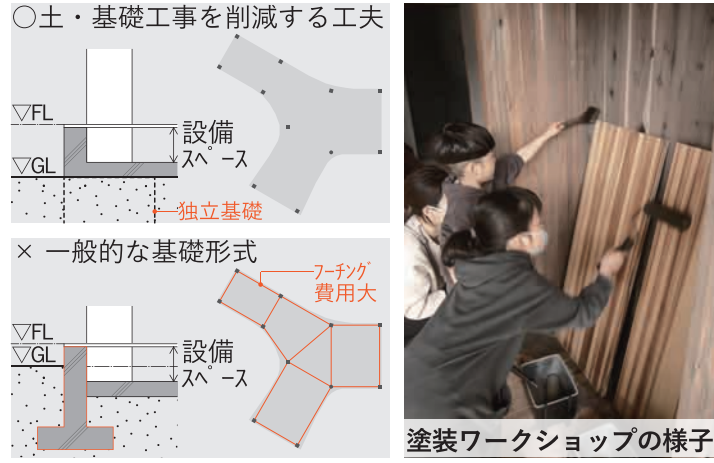
- ・屋根の素材は質感のあるスレート材とし、屋根面が汚れたように感じにくい仕上げとします。
- ・軒先を深くして外壁やガラスに雨水がかりにくい計画とし、清掃コストの削減を図ります。
- ・安価な県産材の小径材を天井仕上げとして採用し、コストを削減しつつ、施設全体が温もりを感じられる空間とします。
- ・壁の一部に文字を書いた掲示ができる仕上げを採用し、管理面での使いやすさに加え、児童の遊び心に働きかけ、活動がより活発になる工夫をします。



■実現可能にむけての設計姿勢

設計の工夫によるコスト管理と工期短縮

- ・FL を高くして既存地盤の上に土間コンクリートを敷設する土工事の少ない計画とし、さらに独立基礎形式とすることで、排出土の削減と工期短縮を図ります。
- ・耐火種別を準耐火建築物（ロ-2）として内装制限を緩和し、仕上費用の削減を図ります。
- ・遊具の移設を最小に抑え、既存樹木を残す計画とし、外構費用の削減を行います。
- ・仕様規制の厳しい外壁面積を減らし、建具を多用することで、効率的に開放性の確保と建設費の削減を行い、有効に使える外構・家具の工事費を捻出します。
- ・什器やデッキの塗装を、建物完成後に利用者と一緒に行うことで、工期短縮と塗装費用の削減を行います。（応募者設計の学童施設での実績あり）



風景と連続し、村の子育ての中心となる学童保育室

■設計の基本的な考え方

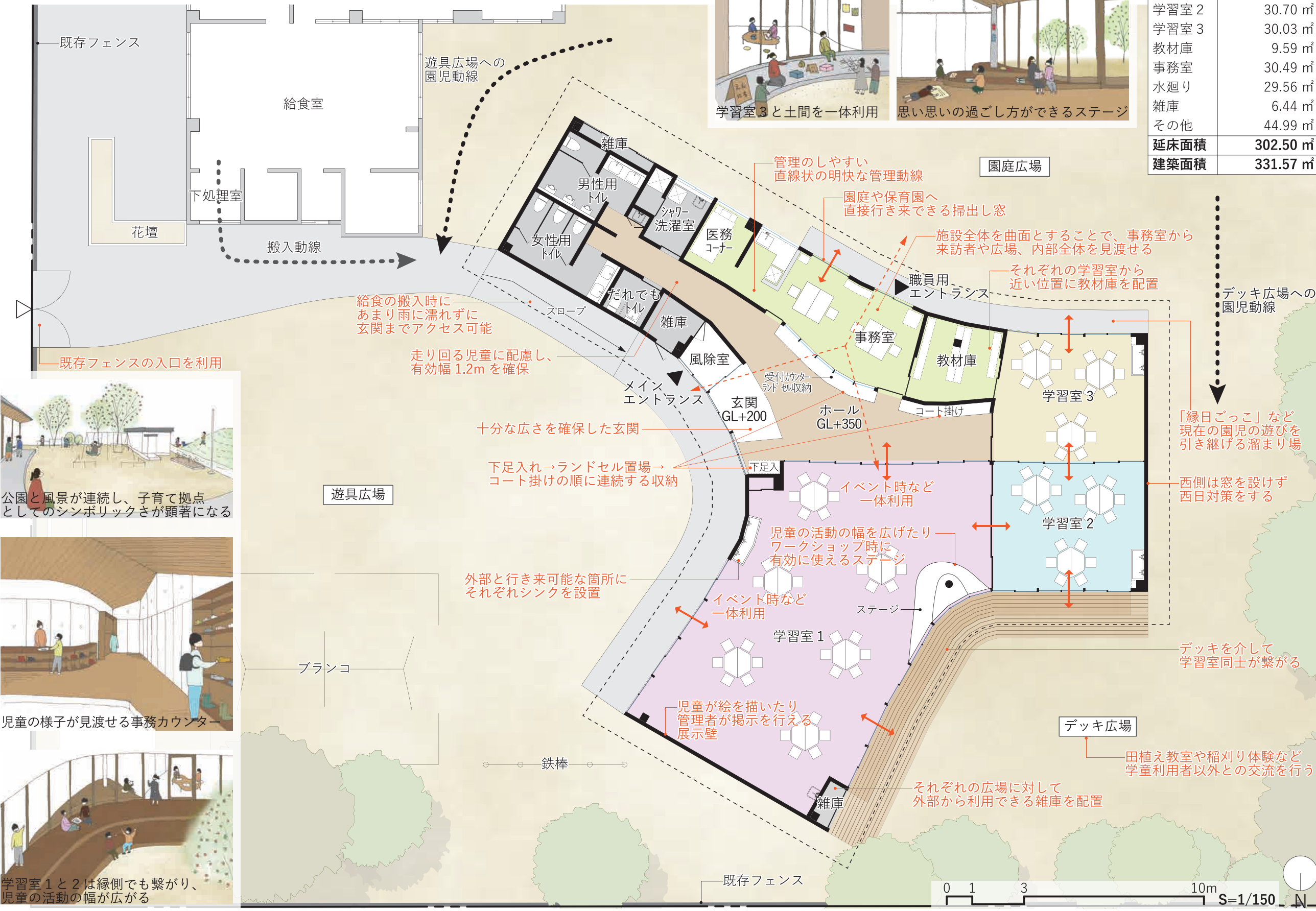
村の未来につながる、子どものための施設を考える

世代を超えて子育ての場として利用されてきた計画地は、周囲に広がる豊かな自然を身体で感じることができる雄大さがあります。この豊かな自然のなかに建つ施設で過ごす子どもの活動を考えたとき、施設に求められるのは、漠然と特定の機能のために用意された空間ではなく、村の風土や環境がひとりひとりの感性を刺激し、自然と身体が動きだすような空間だと思います。そして子どもたちの活動が敷地内にとどまらず、村全体に溢れる未来を考えていきたいと思います。そこで、以下の3つの考えををもった施設を提案します。

1. 周辺の施設やサービスと機能を連携しながら、より良い子育て環境を構築できる「村の子育て施設の拠点」となる建物を計画し、子どもたちの活動が村全体に溢れる風景を考えます。
2. 村のこどもが増え続けることを見据え、学習室を中心に長期的にもフレキシブルな空間とし、子どもの本能のままに活発な活動ができる空間をつくります。
3. 立山連峰や水田、緑樹などの豊かな環境に呼应し、舟橋村ならではの風土を心に感じられるような、大らかな建築を目指します。

■自由な活動を受け入れる平面計画

活動の幅をひろげ、多様な過ごし方ができる豊かな空間



■村内の施設や団体との連携／広域計画

機能の「おすそ分け」で繋がる子育て施設

- ・周辺には子どもたちが遊べる公園や校庭などが多い反面、個々の用途が敷地内で完結していることで、団体を越えた連携が稀薄であると感じます。
- 本計画は、周辺施設からのアクセシビリティが高い立地の特性を活かし、敷地を超えて施設や団体と用途を補完しあう「おすそ分け」の関係を構築することで、村全体で子育てを行う拠点となることを目指します。
- ・敷地を超えた連携によって、子どもの活動が村の風景として感じられる未来を描きます。



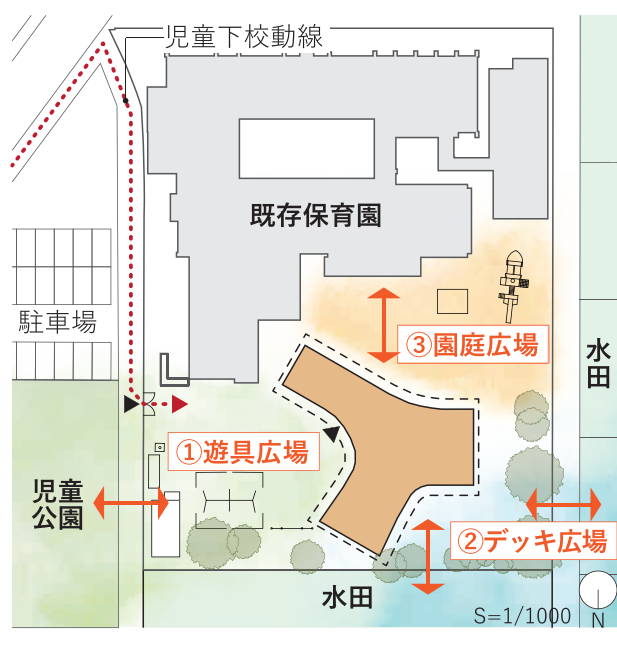
周辺施設・団体との連携ポイント

- ・図書館と移動図書館を企画し、書籍をおすそ分けしてもらう「Fork」や「さくらんぼくらぶ」など各団体が得意とする遊び方をおすそ分けしあう
- ・野球などの球技を行うときは、校庭をおすそ分けしてもらう

■配置計画

豊かな周辺環境と連続する3つの広場

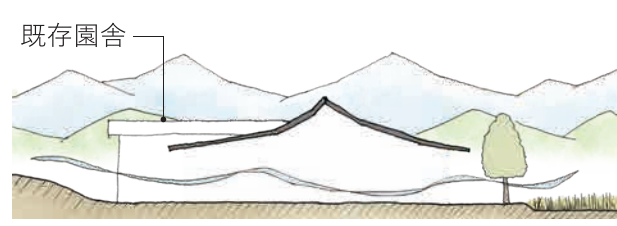
- ・大きな園庭に対して、周囲に広がる豊かな環境と連続する“ここでしか体験できない”3つの広場を生み出す建物配置とします。
- ①児童公園が広がる東側には、既存遊具を活かして公園と連続したランドスケープとなる遊具広場を計画します。
- ②村の風土を表す水田や桜の木が広がる北西側には、園児とお花見や田植え体験など、安全に配慮しながら利用者以外との交流が活発に行えるデッキ広場を設けます。
- ③保育園と接する南側には、園児と児童が十分に走り回れる広さを確保した園庭広場を計画します。
- ・それぞれの広場に特徴が現れるため、大きな園庭では生まれにくい多様な活動の場が生じ、児童や園児の活動の幅が広がります。



■村の風土と景観に調和した施設計画

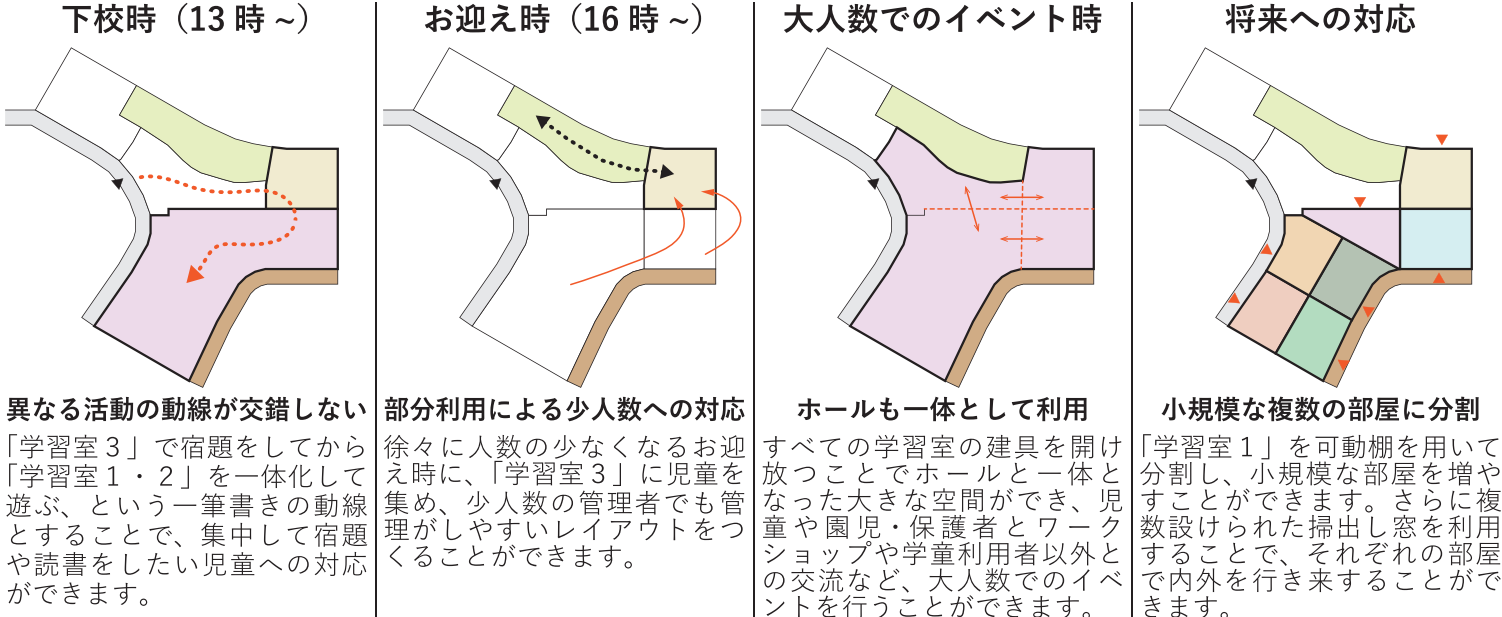
山並みに呼应する大屋根

- ・背景にそびえる立山連邦の山並みに呼应し、稜線に沿ったような大屋根をかけます。
- ・景観への調和に配慮し、既存保育園の高さに馴染む断面計画とします。



日常的にも長期的にも柔軟な使い方ができる平面計画

- ・女性管理者でも容易に動かせる可動建具を用いて、利用者の増減・活動の変化に対応した大小さまざまな空間をつくりることができる計画とします。
- ・将来、村の児童が増えたり用途を変更したい際にレイアウトを変更できる計画とし、長期的にもフレキシブルな使い方ができる工夫を行います。



おおらかに広がる大屋根が村の豊かな風景を体現し、村民が誇れる子育て拠点となる